

# さらさら トロトロ

調布市立東部保育園  
対象年齢：0，1歳児 3人  
令和7年8月実施



## 活動のねらい（設定理由）

色々な感触のものに興味・関心を持って手を伸ばす姿が見られるようになっていたので、水遊びだけでなく氷や寒天などこの夏は実際にいろいろな素材に触れて遊んできました。感触の変化を味わったり、つるつる、ざらざら等いろいろな肌触り、感触を実際に味わう経験ができるようにこのテーマを設定しました。

## 環境設定（準備したもの）

机，ブルーシート，椅子，トレイ，ミニバケツ，水，片栗粉

## 環境設定

机の上にブルーシートを敷いて，一人一つずつトレイを用意しました。

## 活動の内容

片栗粉に徐々に水を入れて，感触が変わっていく様子を実際に触れて感じる。さらさらの粉の感触と，トロトロになった感触を存分に味わう。

## 子どもたちの姿

目の前に片栗粉を出すとツンツンと指で触る子もいれば，手のひら全体をつけて触る子もいました。手に片栗粉がつくと，不思議そうに手のひらを見つめて粉の感触を味わっていました。水を入れ，保育者が目の前で片栗粉と水を混ぜると，真似して手を動かす姿が見られました。粉っぽい感触から，水を入れたことによって水がトロトロになる不思議さを感じたようでした。両手をトレイに入れて存分に楽しんでいました。



## 活動の気づき，振り返り

片栗粉ならではの，感触が変化していく素材の不思議さを味わうことができました。

今回は机の上でじっくり感触を感じられるようにしたのですが，床にブルーシートを敷いて，手だけでなく足や全身で感触遊びを楽しめるような設定にしてもよかったですと感じました。

また，素材の違いをより味わうために，水の分量を少しずつ足して，片栗粉が変化する過程を子どもたちがもっとじっくり感じられるようにして，遊びを広げたいと思いました。

お水を入れると  
どうなるかな？

# 氷遊び

調布市立東部保育園

対象年齢： 1歳児 7人

## 活動のねらい

砂場で氷遊びを行い、氷の変化や砂の変化を楽しむ

## 活動時期

令和7年8月

## 環境設定

園庭の砂場に、砂遊びの玩具(バケツやシャベルなど)と氷を用意する。

## 活動の内容

戸外遊びで砂遊びを楽しんでいるところに、氷を提供し、氷に触れたり、氷が入ったバケツに砂を入れ、混ぜたりしながら氷の変化や砂の変化を楽しんだ。

## 子どもたちの姿

まず、氷に触れて冷たさを楽しんだのちに、シャベルで氷をすくうことを楽しんだ。その後、氷の入ったバケツに砂を入れ、保育者がシャベルで混ぜるのを見て、それを真似て楽しんだ。氷と砂が混ざり合って泥水になってきたのを発見し、手で触れたりシャベルですくって流れる様子を観察していた。氷についた砂が気になる見もあり、砂を取ろうとする姿が見られた。



氷つめたい！  
シャベルでもすくってみるよ♪

氷についた  
砂、取れる  
かな～？

氷が溶けてきた！  
砂とまぜまぜ・・・  
泥んこもたのしいね

## 活動の振り返り

子どもたちが氷でどうやって遊ぶのか、観察をした。氷や砂の変化を見たり、触れたりすることで楽しむ様子が見られた。保育者がシャベルで混ぜる姿を見て真似たり、型はめをしてアイスを作る様子を見て楽しむ姿があり、何度も遊びを経験していくうちに子どもの遊び方にも変化がみられるだろうと思った。

## 保育者の気づき

氷は溶け始めると、砂が周りにつくため、手に砂がつくことが苦手な児は、氷が溶け始めると違う遊びへ遊びを変えていた。また、泥んこが好きな児は氷が溶け始めた頃が楽しく、氷の状態で遊びに夢中になる児とは違っていた。

# 音を楽しむ

調布市立東部保育園

1,2歳児 混合クラス 10人

## 活動のねらい

身近な音に反応し、聞こえる音に気づいたり真似をしたりと興味を示している姿が増えたため、より音を楽しむきっかけになるように設定しました。

## 設定時期

令和7年8月

## 環境設定

片手で持てる大きさのペットボトル  
ビーズ、モール、鈴などのペットボトルに入れて振った時に、音が出そうなもの

## 活動の内容

ペットボトルに音が鳴りそうなものを入れて、音を感じて楽しみながらマラカスを作りました。また、音楽に合わせて自由に表現することも楽しむことができました。

## 子どもたちの姿

- ・見本を用意して、子どもたちの前で鳴らしてみたことで、より興味をもって取り組むことができました。空のペットボトルを鳴らして「(おとが)ないね」と言い合う姿や、物を入れるたびに鳴らしてみても、音の変化に気づいていました。
- ・音楽に合わせて振り、楽器にして楽しむ姿もありました。
- ・音を出して楽しんだ後もまた「やりたい!」と遊んだり、マラカスを遊びに取り入れる姿もみられました。



ふりふり!



小さいパーツも自分で選んで入れました!



一緒に鳴らすと楽しさ倍増!



## 活動の振り返り

自分のマラカスを作ったことで「自分の」という愛着がわいて、活動後の遊びの中でも、繰り返し楽しみました。

## 保育者の気づき

ペットボトルに入れる素材が増えていくにつれ、音は変化していきます。その音の違いを声掛けしながら関わったことで、音が少しずつ変化する様子への気づきにつながりました。その後の遊びにも取り入れられ、音遊びを長く楽しむことができました。

# 「いろ」色と出会い、色をつくる

調布市立東部保育園

2歳児 13人

実施時期

令和7年8月

## 活動のねらい

- ・色の变化や違いに気づき、見たり触れたりしながら楽しむ
- ・自分でつくった色水を通して、試したり比べたりする経験を味わう

## 準備するもの

- ・コーヒーフィルター
- ・マーカー
- ・クレーフ紙
- ・ペットボトル・水

## 環境設定

【コーヒーフィルターにマーカーで彩色し色水づくり】  
コーヒーフィルターに好きな色を塗り、ペットボトルに水と一緒に入れ、振ることで色にじみ出てくる変化を楽しむ。  
【クレーフ紙で色水あそび】  
クレーフ紙（赤・青・黄・緑・オレンジ）をペットボトルに水と一緒に入れ、振ることで色が出てくる変化を楽しむ。

## 活動の内容

### 【フィルターあそび】

・マーカーで色をつけたフィルターをペットボトルに入れ、「ふって ふって あっ！でできた！」と友だちと一緒に変化を観察。  
・にじみ方に個人差があり、色の出方を比べて「〇〇ちゃんのはピンク！」「ほくのは黒い～」など発見を共有する様子が見られました。

### 【クレーフ紙あそび】

・色水あそびが好きになり、ペットボトルに何枚も何枚もクレーフ紙を入れ色を混ぜました。色をいっぱい混ぜたいようで、別のペットボトルを持ってきても一色だけではなく何枚も入れ最終的には麦茶色に！！

この ジャース おいしいは

まぜたいな--

こんどは...なに  
ジャースに する??



## 活動の振り返り

- ・活動の中で交わされる言葉や比べ合い、想像の広がりを大切にしながら、色を“感じる・試す・表現する”機会を意識していました。
- ・色水だけでなく、セロファンや自然物など他の色素材にも触れることで、より多様な“色の世界”を広げていければと思います。
- ・色水を製作活動とつなげ、好きな色を使って塗る・にじませる・たらすなどの表現にもつなげていきたいです。

## 子どもたちの姿

- ・ペットボトルをたくさん用意し自分で選び、混ぜたり振ったりする中で、「こうしたらどうなる？」と試す姿が多く見られました。
- ・友だちの色と自分の色を比べて「〇〇ちゃんの、もっと濃い！」「そっちはピンク！」といったやりとりが自然に生まれ、興味の共有や言葉のやりとりにもつながっていききました。
- ・一度混ぜて失敗しても、やり直してみる子もあり、繰り返し試して自分なりの“きれい”を見つけようとする姿勢もみられました。

いろを混ぜると・・・  
いろいろなジュース完成



ながしても いい??

## 保育者の気づき

- ・子どもが色の变化に気づいた瞬間には、「ほんとだ！赤と黄色でオレンジになったね」「どの色を入れたの？」と問いかけ、気づきを言葉にすることで色への興味が広がっていききました。
- ・一人ひとりのつぶやきを拾い、「〇〇くんはいちごジュースみたいって言ってたね。ほかにはどんなジュースができるかな？」など、想像の世界につながる言葉かけを心掛けました。
- ・色の出方が異なる素材（フィルター・クレーフ紙）を意図的に提示し、「ちょっとずつ出てくるね」「これ、すぐ赤くなるね」と素材の違いを意識することが大事だと改めて感じました。
- ・色の变化が視覚的に分かりやすくなるよう環境のためにペットボトルやコップなど、透明な容器を用意しました。

# 「いろ」色と出会い、色の世界へ

調布市立東部保育園 2歳児13人  
実施時期：令和7年10月

## 活動のねらい

- ・自分で色を選びその世界を楽しむ
- ・装飾品を身に着ける楽しみを感じる

## 環境設定（準備するもの）

- ・めがねの形の台紙 ・マーカー
- ・カラーセロファン
- ・バンド（色画用紙、輪ゴム、テープ、ホッチキス）

画用紙をめがねの形に切つてくり抜かれたレンズ部分にカラーセロファンを貼る。

めがねのふちをマーカーで色付けをする。その後、好きな色のカラーセロファンを選び身に着けた。

## 活動の内容

### 【とんぼのめがね】

- ・めがねの形の台紙に子どもたちがカラーマーカーで色付けをして、選んだ色のカラーセロファンをレンズの部分に張り付けました。
- ・部屋の中や園庭で、作ったトンボのメガネを身に着けて楽しみました。



きいろいせかいだ！



いろがかわった！



## 子どもたちの姿

- ・選んだカラーセロファンによって見える景色の違いに気が付き友だちとめがねを交換する姿が見られました。
- ・園庭では、太陽の光を通すことで影にも色が付くことに気が付いていました。
- ・友だちのめがねと重ねて、レンズの色が黒っぽくなることに気が付いていました。
- ・気に入った子は何度も新しく作り、その都度カラーセロファンの色を変えたり、同じ色にする子もいました。

## 活動の振り返り

- ・子どもたちが色の世界に気が付いている様子だったので、それを表現できるように活動を支援しました。
- ・赤や緑のペンを使って模様を描いて、何色の眼鏡で、どのように見えるかなど色を使った実験につなげていきたいと考えています。
- ・園庭や窓の近くで、影の色に気づいた姿から、様々な場所で眼鏡を身に着けられるようにしてよかったと思いました。

## 保育者の気づき

- ・左右の色にこだわる子は同じ色にしたり、わざと違う色を選んだりしていました。理由を聞いてみると「ピンクが好きだから」「トンボの目が赤いから」などそれぞれ理由を持って製作していることが分かりました。
- ・友だちと眼鏡を交換したり、眼鏡を重ねたりして自分だけではなく、友だちとの関わりの中で発見することを楽しんでいると気づきました。

### 活動のねらい

夏の水遊びの際，色水への驚きと興味・関心がとても高かったことから，様々な色の色水を使用して色の混ざり合いや変化に気づき，楽しめるようこのテーマを設定しました。

### 活動の内容

3つのたらいにそれぞれ1色ずつ色水を張り，道具を使って子ども達が自由に色水同士を混ぜたり水と混ぜたりし，生まれた色を楽しみました。その後，自分たちが作った色水を半紙に垂らして染めてみました。

### 子どもたちの姿

色水を見ると「わあ！！」と目を輝かせていました。自分たちで色を混ぜてみると「紫になった！」「ぜんぶ入れたら茶色になっちゃった！」と想像していなかった色に驚き，言葉にしています。回数を重ねていくにつれ，混ぜるとできる色の組み合わせを覚えて，自分の作りたい色にしている子ども達もいました。友だちと同じ色にしたいと「どうやってつくったの？」と聞いてみたり，色から「いちご」や「ぶどう」等味のイメージが生まれ，ジュース屋さんを開設していました。作った色で紙を染めることを提案すると「やりたい！」と意欲的な子ども達。色水のままの色が写らなかった紙を見て「色がなくなった！」「風でかわいちゃったのかな」と話していました。紙に色が付くにはどうしたらよいだろう？と保育者が話すと「濃い色で塗ったらいいんじゃない？」「水遊びで使ったポンプをつかったら？」「ふでをつかったら？」と思いをめぐらせていました。

## 活動① 色水遊び

実施時期  
令和7年8月

### 環境設定

水，絵の具，食紅，たらい，シャンプーボトル（透明），ミニプラカップ（透明），ペットボトル，バケツ，半紙，トレー



### 活動の振り返り

夏の間，子どもたちから「今日も色水やりたい！」とリクエストがあり，使用する色や濃度を変え，何度も繰り返し楽しむことができました。色の変化だけでなく水を使用していることで色の濃淡や太陽の光にかざして透ける感覚も味わっていた子もいました。半紙染めにしたことで，水分を含んだ紙がすぐに破け，子どもの手では扱いづらい様子でした。また，乾くと色がほとんど付いていない紙になっていました。

### 保育者の気づき

様々な色を使用したことで，活動毎に新しい気づきが生まれていたと感じます。普段の水遊びの玩具だけでなく，透明のカップやボトルを用意したことで色の変化や違いが視覚的に分かりやすくなり，少しずつ水を足し何個も並べて色の違いを観察したり，色を作るだけでなく見立て遊びやごっこ遊びへと繋がっていったと感じました。色水で半紙が染まるかと思いましたが，色水で作ったそのままの色が紙に写ることはありませんでした。しかし経験することで，子ども達も“どうしたらいいの？”を考えてみるきっかけになり，また考えを巡らせ，言葉で伝えられていたことに成長を感じました。子ども達の言葉から次の活動に繋がっていきたいと思います。

# テーマ：色をつくり，色と遊ぶ

## 活動② 博士の色づくり実験

調布市立東部保育園 3歳児13名

### 活動のねらい

前回の色水遊びの中で行った半紙染めをきっかけに色の混ざり合いや変化を楽しみ，自分たちで色を作り出す体験ができるよう活動を行いました。

実施時期  
令和7年9月

### 環境設定

絵の具（赤・青・緑・黄），シャンプーボトル（透明），ミニプラカップ（透明），画用紙，トレー，筆

### 活動の振り返り

子ども達から出た言葉を汲み取って，活動の素材選びを行いました。絵の具の比率を高くした色水を使用したことで，混ざり合う感覚が視覚的にわかりやすい活動になったと思います。

また，紙の素材を画用紙にしたことで紙が破れず子ども達が自由に筆で広げた分だけしっかりと色が混ざり合っていました。

### 活動の内容

4つのシャンプーボトルにそれぞれ赤・青・緑・黄の色水を用意しました。その中から子ども達が2～3色好きな色を選び，自分たちで好きな回数ポンプを押してミニカップに入れ，画用紙の上に垂らして広げ，混ぜ合わせました。

### 子どもたちの姿

友だちがポンプから出している時から「何色にしようかな？」「何色になるだろう！」と自分の番が来るまで期待感を持って待っていました。混ざり合った色を見て，「夕焼けみたい」「ブルーベリー色」「キャベツ！」「紫色できた」「ちゃいろになった」と話しており，「次は違う色を混ぜたい！」と2回目，3回目と行っている子ども達もいました。「全部混ぜたら何色になるんだろう？」と話す姿もみられました。



### 保育者の気づき

この活動の前にもデカルコマニーの製作を行っており，色の混ざり合いの体験に興味・関心が高まっていました。

色の混ざり合いの経験を重ねてきたことで「この色を作りたいから」と混ぜる色を考える子もいました。色の比率の配合も子ども達が決めたことで想像していなかった色が生まれ，更なる驚きもあった活動だったと感じます。混ざり合うまでの過程も味わうことで，色から生まれる表現もより豊かに表出していたと感じます。

# テーマ：色をつくり，色と遊ぶ

## 活動③ ドリンクバーごっこ

調布市立東部保育園 3歳児13名

### 活動のねらい

色を混ぜ合わせることや色の変化に興味を持ち楽しんできたことから、色への関心が広がるように、作った色から味を連想し、保育者や友だちとごっこ遊びを楽しめるように設定しました。

### 実施時期

令和7年11月

### 環境設定

色作りをした画用紙，手作りドリンクバーごっこセット，プラコップ，ストロー

### 活動の振り返り

・色から連想される味は子ども達の口から次々と出てきていました。色から連想される味を尋ねる事でドリンクバーにもより興味を持たたのではないかと感じます。色と味を繋げ、ごっこ遊びとして楽しむことが出来ました。

・子ども達の興味から「色をつくり，色と遊ぶ」をテーマに活動をしていきました。子ども達が色に興味を持ち、複数の色が合わさることで色が生まれていく，色を自分で作ることが出来ることに自分自身で気付くことが出来るきっかけとなったのではないかと思います。今回はごっこ遊びへ展開していきましたが、今後はさらに、周囲にある身近な色に興味を広がり，色と親しみ，色と触れ合えるような環境設定をしていきたいと思っています。

### 活動の内容

色作り実験で、できた色の画用紙の色から子ども達が味をイメージし、その味の飲み物に見立ててドリンクバーごっこ遊びを行いました。

### 子どもたちの姿

前回の色づくり実験で生まれた画用紙を「この色は何の味に見える？」と子ども達に問いかけると、「これは、バナナだ！」「ぶどう」「みず」「やさしいじゅーず」「めろん」等色々な味を想像してお話していました。コップを配る役，ジュースを入れる役，ストローを配る役，お客さん役を交代しながら好きな役になりきってドリンクバーごっこを楽しみました。少しくすんでいる黄色を見て、「これはくさったバナナみたいだね」と友だち同士で笑ったり，一緒に乾杯してお話しながら飲む姿もみられました。



同じだね！美味しいね！



いらっしゃいませ！  
何味のジュースにしますか？  
ストローをどうぞ

### 保育者の気づき

色から、保育者が予想していなかった味を連想している姿もあり、自由に発想できる面白さを感じました。この活動の後も、子ども達は何度も「ドリンクバーごっこやりたい！」と保育者や子ども達同士で遊んでおり、やりとり遊びの経験が増えていきました。今回子ども達が興味を持った「色」が、子ども達の遊びにも広がりを見せていったと感じます。

# ごっこ遊び

調布市立東部保育園

4歳児 14人

## 活動のねらい（設定理由）

クラスにあるアイスクリームのおもちゃを使ってお店屋さんごっこを楽しんでいたため、自分で作ったもので遊ぶ経験からごっこ遊びへの興味をより広げることができるよう活動を設定しました。

## 活動時期

令和7年8月

## 環境設定

- ・折り紙で作ったアイスクリームやコーン、トレー（お店屋さん用）
- ・テーブル、椅子（イートインスペース）

## 活動の内容

自分たちでアイスクリームとコーンを折り紙で作り、お店屋さんごっこをしました。店員役とお客さん役に分かれ、役割をグループごとに交代しながら遊びました。

## 子どもたちの姿

お店さんのやり取りが分かり、お客さん役の子は自分の好きな味のアイスクリームを選ぶことやお友だちと一緒に食べることを楽しんでいました。店員役の子は、アイスクリームをコーンに乗せてあげていました。途中から2つ重ねたアイスクリームを作ったり、色から想像して「いちご味」が「もも味」になったりと自分たちでイメージを膨らませながら遊ぶ姿が見られました。

いらっしゃいませ～！



どれにしますか？

チョコ味ください！

今アイスクリーム作りますね



## 活動の振り返り

全員で役割を交代しながら遊び、お友だちとのやり取りを通してごっこ遊びの楽しさを感じているようでした。今後も自分の作ったものを使った遊びが継続するよう環境設定をしていきたいと思います。

## 保育者の気づき

子どもたちの興味関心に合わせたものを題材にしたことで、どの子どももごっこ遊びに興味を持っていました。自分たちで作ったものを使ったことが遊びの導入として良いきっかけになりました。

# テーマ： 泡



調布市立東部保育園

5歳児 16人

## 活動のねらい

毎日触っている泡で遊び、遊びの中で素材が変化の様子を存分に味わい、楽しみながら、なぜ? どうして? の興味を広げる

## 活動時期

令和7年8月

## 環境設定

- ・プール内にタライを3個スペースをあけて用意する。
- ・固形石鹼、ネット、食紅(黄色、青、赤) バケツ、カップ、ひしゃく、水を用意する。

## 活動の内容

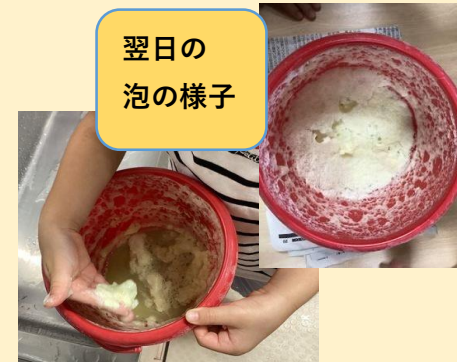
タライに少量の水を入れ、石鹼を泡立てて感触を楽しんだり、見立て遊びを楽しむ。遊びながら泡に色を付けることで、泡の変化への想像を広げる。

## 子どもたちの姿

- ・泡の立て方や水の量を変えると、感触が違うことに気づいて喜び、工夫して泡を作っていた。
- ・自分の好みの感触の泡を作ろうとしたり、作った泡の量を友達と競う姿がみられた。
- ・色をつける前に青の食紅は色が付きにくいのではないかと考察して、期待しながら食紅を付ける様子を見ていた。
- ・泡遊びを終えようとしたところ「流したくないね。」「この泡、取って置いたらどうなるんだろう?」と子どもたちから疑問の声が上がってきた。「明日まで取っておいてみよう!」と観察を翌日まで続けることにした。泡を取っておくことで、感触が変わることや分離することに気づき、驚いていた。



## 翌日の 泡の様子



## 活動の振り返り

泡を自分で作ったり、食紅で色をつけることで、いつもとは違う泡ができるかもしれないという考察ができた。興味や関心がわき、探求心に繋がっていた。

## 保育者の気づき

普段の遊びの環境に少し変化が加わることで、子どもたちの興味や関心の持ち方に変化が見られた。子ども達の姿から分量を変える、色を付けるなど活動内容に変化を付けることで、友達とも観察、考察し合うことができた。

また、翌日の活動に結びつき、より楽しさが増していた。